

# 私の一冊

こども学科 山本 学 先生

## 乙一 著 『失はれる物語』

小鹿図書館 913.6/O 87

人は誰しも、何かを失いながら生きている。もちろん、あなたも例外ではないだろう。

『失はれる物語』は、そのタイトルの通り、「失うこと」を通して人と人とのつながりを描いた短編集である。収録作はそれぞれ独立しているため、どこから読み始めても楽しめる。大学生の皆さんにおすすめしたい一冊を考えたとき、真っ先に思い浮かんだ作品だ。

### ■ Calling You

友だちとうまく打ち解けられない女子高校生の「私」。携帯電話を持たせてもらえない彼女は、頭の中に架空の携帯電話を思い描いていた。ところがある日、その空想の携帯電話が鳴り響く。電話の相手は、同じ高校生の少年だった――。

読み進めるうちに、どこか『君の名は。』を思わせる設定だと気づくかもしれない。しかし、その結末はまったく異なる。静かで切なく、胸を締めつけるラストが待っている（なお、本作の発表は『君の名は。』よりも前である）。

### ■ 失はれる物語

「腕一本だけの世界で物語を書いてください」

そんな無茶な条件を与えられたら、あなたはどんな物語を思いつくだろうか。本作は、まさにその発想から生まれた一編である。限られた世界の中で、読者を惹きつけ続ける乙一の筆力が存分に発揮されている。暗闇の中から少しずつ姿を現す物語の魅力を味わってほしい。

このほかにも、壁越しに少女と奇妙な交流を続ける泥棒を描いたコミカルな「手を握る泥棒の物語」、そして読み終えたあと世界が少し優しく見えてくる「しあわせは子猫のかたち」など、印象的な作品が並ぶ。

どの作品にもさりげないミステリーの要素が散りばめられているが、本質は人間ドラマにある。物語は濃密でありながら読みやすく、一編あたり 20 分もかからずに読める。読書が苦手な人にもおすすめできる一冊だ。

もし少しでも気になったなら、ぜひこの“失われる物語”の世界をのぞいてみてほしい。